

天覧山に今年もまた春が来ました。初めて天覧山に登ったあの春の日を思い出します。今から三十六年前、小学校四年生の時のことでした。当時は多摩川の下流、東京の大田区に住んでいました。母が何かで天覧山のハイキングコースのことを知り、家族揃って出かけたのでした。雑木林をかけ下りてたんぽにズボットはまり、足をどろんこにしたのは、今思えば「ホタルの里」の休耕田に違いありません。名栗川の透きとおった水や川底の色とりどりの石の色に、子供ながら心躍らせたことが、鮮やかに蘇ってきます。その日から二十年経って、飯能に住むようになり、今その天覧山周辺の自然を保全する市民運動に深く関わるようになりました。人生は不思議、そして楽しいものです。

鈴木弘子



NHKニュースはどう?

三月六日NHKのテレビで、「飯能市は、当地を緑の基金などで買い取り、保全してゆく」というニュースが流れました。その直後から守る会に対して、多くの方より「良かった」「本当に開発はストップするの?」等々の問い合わせが相次ぎました。

しかし残念ながら、このニュースは以前より市が主張しているままの、住宅団地、道路、学校を開発した後の残りの部分を保全するという事なのです。あくまでも開発が前提であるという姿勢は変わっていません。

現在、当地全体の環境アセスメントと共に、オオタカや県民休養地の為の調査が行われています。その結果を見て、当地の開発や保全についての検討が行われるべきであって、それらの調査、検討を待たずに、保全地区を限定してしまうなど、あつてはならない事です。

テレビを見た多くの方が「開発は止めた」と思ったようでした。大喜びで問い合わせた来た方にそうではない事情を説明してゆくと、喜びが失望や不信に変わっていききました。共につらく残念にありませんでした。いつの日か、この山々が満足できる姿で残されたというニュースの流れる日が来なくてはならないのです。

おさせい

高尾山の園央道問題について、ビデオとお話しを伺います。

◇四月二十六日(日)午後二時半〜三時半
◇富士見公民館 二階和室 参加無料
◇話す人 高尾山の自然を守る市民の会 事務局、橋本良仁さん

会員募集集中!

現在、天覧山・多摩主山の北東地域には、西武鉄道による巨大団地計画があります。「天覧山・多摩主山の自然を守る会」は、計画の発表以後、署名運動や、県や市に対する働きかけ、自然観察会、会報「やませみ」の発行などを通してこの地域の自然を残すことを訴えてきました。この団地計画に対する県の許可は、まだ下りていません。緑豊かなふるさとを守るのは、私たちひとりひとりの市民です。まだ間に合います、どうぞあなたも参加して下さい。

会費や手続きなど、詳しいことは事務局までお問い合わせ下さい。また「やませみ」やお知らせなどは、谷口眼科・銀河堂・Café裏にも置いてあります。

No.16



天覧山・多摩主山の自然を守る会 会報

やませみ

山は唄っています。叫んでいる。

いろいろな生きものが産まれる
活気があふを巻いて山の上を覆って
わたしは時々痛いくらいです。その産声を次の時もその次の時も
聞き届けられるようにと願っているから
わたしの力をふり返り痛いのです。

でもここに仲間の声がありました。

この山を自然公園にしてほしいという声

新しい仲間、新しい声

後づつから山を守ろう、

制度をいかり見守ろう、

という声

インターネットという新しい

試みからの声

そして山の生きもの

たちの声

今号 わたしに届いた。



そして

あ、わたしの中に元気が生まれたようです。

県民休養地構想の中で 里山＝自然公園をつくる

自然環境調査が実施される

県の委託を受けた埼玉県生態系保護協会が調査を続けて来た、天覧山・多峯主山（以下、当地とする）周辺の自然環境調査報告書が、いよいよ県に提出されようとしている。守る会は一昨年より、繰り返し当地の開発計画の見直し、オオタカをシンボルとした生態系の保全を訴え続け、その具体案の中で県民休養地構想の再開を要望してきた。これに応えて県は、この一年、当地の環境調査を予算化し実施し続けてきた。私達の希いが、実現に向かって新しい一步を踏み出したのである。

守る会が調査内容の公表を待つて、この計画の実現のために積極的に県、行政への参加を続けたいと思っている。

県民休養地構想とは

十六年前、県によって作られたこの構想とは、天覧山を囲む神久山から多峯主山に続く尾根の南面側に、ツツジや湿性植物園、展望や休憩園地を擁し、芝生広場やホタルの谷を造るというものだった。当地の自然環境を生かして保全整備することを主眼とした自然公園計画であったと言えるだろう。

るがす重大な事態に直面したといえるだろう。市は常に、住宅開発こそ市の発展と主張し続けてきたが、今や街づくりのマスタープラン、住宅開発は十二万人都市構想からの一刻も早い方針転換が急務ではないだろうか。

少子化、高齢化、経済の停滞の中で、未来に夢のある街づくりが求められている。

里山は自然の公園・自然の学校

戦後五十年間、全国の乱開発の波は飯能市も例外ではなく、市街地周辺の丘陵緑地は、ことごとくゴルフ場や住宅団地になってしまった。そんな中で当地の山々は本当によく残された。

これは、かつての守る会、現在の守る会、そして飯能ばかりではない多くの市民が陰に陽に協力し合って保全を求めた努力の賜物であった。また、市にとっては街の自然のシンボルであり、西武鉄道にとっても発祥地のふる里の山々であった。誰もが、ここだけは守りたいと心の底で想い続けてきた所なのである。

私達市民が求める自然公園の姿とはどんなものだろうか。その答えは当地の環境そのものの中に、いっぱい見つまっていると思う。また全国各地で人と自然が共

また、この公園計画こそ二十一年前の飯能市民による「天覧山付近の自然を守る会」の運動の大きなうねりの中で、県が示してきた解決策であった。この運動では、開発計画の大きな見直しは出来なかったが、団地を結ぶ道路と学校建設の計画変更の確約を実現した。そしてなによりも、この二十年間、開発計画はストップし、私達の身近にある豊かな里山の自然として、多くの市民に親しまれ続けている事こそ、その最大の成果であったと言える。

また、県の構想に先だって市も二百万円余の予算をかけて市民公園計画を作っていたが、共に現在まで休眠を続けていたのだった。

大規模住宅開発の明滅の中で

一昨年、国は住都公団の住宅開発からの二年後の撤退を決定公表した。日本の代表的特殊法人である住都公団の事実上の破産宣言であった。

※96現在、首都圏で千九百二十五戸、九百二十億円分売れ残りがあった。毎年二千億円、総額四兆円という国の補助金＝税金をつぎ込んだ結果である。

飯能市にとっては街づくりの根幹をゆ

生し続けることのできる、リサイクル可能なライフスタイルや産業の在り方が求められてきている。その理想の一つとして、里山復活への試みがある。当地こそ奥武蔵の里山を代表できる環境、景観を備え保っている所である。これは守る会の様々な活動の中で当地を知るにつれて深められた実感であった。私達自身のすぐ近くに静かに存在する宝物を見つけたす目を養うことの大切さを、学ぶことでもあった。

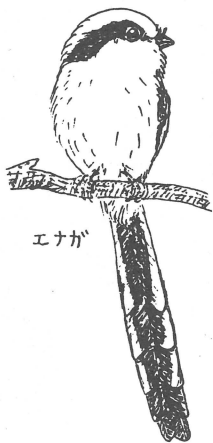
県民休養地構想が再開して自然公園計画がスタートした今、当地を訪れる市民が心より安らぎ、癒され、自然に帰ってゆける公園の実現にむかって、これからの守る会の活動が具体的な提言ともなりモデルともなっていくよう、皆で考えてゆきたい。かつての里山の面影を訪ね、これからの里山のあるべき姿を学んでゆけるような自然の学校として、楽しく拡がりのある活動を計画してゆきたい。

天覧山・多峯主山にも、また、ものみな蘇生する美しい春が巡ってきた。このふる里の山々を私達の自然の公園、自然の学校として一人でも多くの市民が愛し、訪ね、親しんでゆくことこそ、この地を守り続けてゆく、なによりの近道だと思いませんか。

早瀬成憲



天覧山 多峰主山の 四季



エナガ

春霞の音

雑木林の淡い褐色の枝先には銀色の柔らかな羽毛に包まれた新芽が膨らみかけてきました。

沢沿いの道を進むと、枝先で忙しく動きながら苔を集めているエナガのペアに出会いました。エナガは、カラ類と呼ばれるシジュウカラの仲間、短い嘴に長い尾をした小さな鳥です。動かずじっと観察していると、意外なほど人の近くまで寄ってきます。

エナガは苔が集まると一直線に対岸のヤマザクラの枝へと移り、枝の二股に分かれた場所に苔や樹皮をクモの糸で繋いだ楕円形の巣作りをしています。完成までもう一歩というところでしょいか。巣は遠くから見ると、丁度木の瘤のようであまり目立たず、カモフラージュされていました。

エナガの巣作りを見た後に休耕田の草地を歩いていくと、足元近くから微かに

「ギツ、ギツ、ギユツ」と声が聞こえてきます。しかし、声の方向には何も見えませんが、刈られたススキの束があるだけです。しばらくすると、同じ方向からまた声がしてききました。そして今度は、別々の方向からも複数の同じ声がしてききました。下には掘られた小さな路がついていて、カヤネズミのトンネルです。カヤネズミは体長7〜8cmほどの小さなネズミで、ススキやカヤなどに球状の巣を作ります。冬にススキなど草地の植物が枯れると、地下にトンネルを掘って生活をします。カヤネズミの声に上空を見上げると、空高くタカの仲間のノスリがホバリングを行いながら地上の獲物を狙っています。ノスリは扇形に尾を広げ、浅い羽ばたきと旋回をくり返ししながら空中で停止し、谷戸に沿って地上の動きを監視しています。

す。カヤネズミは声で仲間にノスリの飛来を知らせていたのかもしれない。

柔らかな日ざしの中、雑木林の小道を進むと薄紅色のウグイスカグラの花が目にと映り、落ち葉の間からは薄紫のタチツボスミレや、小さな白い花のヒメウスが咲きはじめました。黄色い花穂のカンスゲにはハナアブの仲間が交代で訪れています。市道一八一号線を神久山から市街へ抜けると、諏訪沢の水田近くではモズが地上から虫を見つけて捕らえては茂みの中へと運んでいました。もう子育てに入っているのでしょうか。

諏訪沢の水田には小さく黒いヤマアカガエルのおたまじやくしが沢山泳いでいました。

文・イラスト／市川和男
諏訪日本生態系協会・研究員

環境調査を行う 公益法人設立に 疑問……

昨年、産業廃棄物処理業者が全額出資（二億円）する「埼玉県野生生物保護協会」という団体が、財団法人化されるという問題が、突然浮上してきました。一般的には企業が自然保護に貢献する事は歓迎すべきなのですが、直接利害がからまないという条件が求められます。啓蒙、普及活動の支援などなら理解できますが、開発の許可を左右する調査事業（環境アセスメント）を行うとなれば、情報公開をし、慎重な内容調査及び実績が必要なのはです。

ところが、今年二月十七日に当協会から申請書が提出され、県が即時受理したと連絡がありました。

そこで環境保護一〇六団体は、二つの問題点に集約し、要望書を二月二十三日に土屋知事宛に提出するに至りました。要望事項は次の通りです。

- ①「埼玉県野生生物協会」の財団法人化がどうしても避けられない場合は、天下りの役員就任に関して自主規制を求めること。
- ②「埼玉県野生生物協会」の財団法人化に際しては、最低限その事業内容から利害関係が密接で、中立性に懸念が大きい「調査事業（アセス）」除外の指導を行うこと。



はじめ!!

聖望学園高等学校
放送部です。



私達は、地域の身近な話題の中から番組を作ろうと思う、2年前全国的に話題になったオオタカを取り上げてみることにしました。

わたしが、 あなたが街づくり そしてすばらしい飯能に

鎌倉市（人口17万人）では、街作りの基本理念に「環境自治体の創造」を掲げ、市民向けワークショップやシンポジウムなどを活用し、非常に多くの市民が参加して環境条例を作った。そして総合計画審議会の答申には、「地球環境問題は市民の生存に関わる身近な問題であるとの認識に立って、環境自治体の創造に向け、その内容・目標・市民の目指すべき方向性などの明確化を図ることを要望します」という付帯意見が出ている。市民参加は権利や義務であると認識して、街作りに多くの市民が関わったからこそ、市議会議員や町内連合会長から、この様な意見が出されたのだと思う。

今、飯能でも街作り計画の策定に向けてのワークショップが行われ、私もそれに参加している。これによって地域のひとと知り合い、思いのほか、皆自分と同じ価値観のあったことを知った。住民が主体となって進めていくという街作り事業（アクションプログラム）というのがある。この地にきて十年の私が、ワークショップに参加しているうちに、地元の人たちの気持が良く、お互いにこの地に愛着が湧いてくる。アクションプログラムが出来れば、きつとすばらしい飯能になるに違いない。その為にも一人でも多くの「普通の市民」の提案や発想が必要だと思ふ。飯能や、より身近な地域を良くしていく為に一肌ぬこうという人の参加を待っています。

☆問い合わせ先
・飯能市役所 企画調整課（内線333）

今日、連日のように環境問題が報道されています。飯能市も例外でなく、美杉台、大河原の開発をはじめとして、飯能の山並みが、毎年少しずつ消えていっています。これ以上山を削って住宅を建てる意味があるのでしょうか。それとも、これ以上の飯能市の発展の為には、都市化の為にはしょうがないことなのでしょう。この疑問をオオタカの問題を絡め合わせながら解いていきたいと思ふ。これから毎月の、日よう日ふる里散歩に参加していきます。皆さんどうぞお見知りおきを……

インターネットに ホームページも 開設しました。

私は、秋に天覧山でサシバやハチクマの渡りを観察し、その結果をインターネットで公開しています。毎年楽しませてもらっている天覧山・多峰主山が開発の危機にさらされ、「守る会」が保護活動をしているというお話を聞きました。

「渡り」の時以外は、休眠している私のホームページで「守る会」を紹介すれば、いくらかでも活動のお役にたてるのではと考え、制作、公開させていただきました。

「天覧山・多峰主山の自然を守る会」のページでは、開発状況や活動の紹介、ふるさと散歩のお知らせ、そして市川さんの「天覧山・多峰主山の四季」を載せています。

インターネットに接続される機会がありましたら、ご覧下さい。

ホームページのアドレス
<http://www.venus.dti.ne.jp/~shig/>

「守る会」の活動で、天覧山と多峰主山の豊かな自然がいつまでも残りますよう願っています。

安田重夫



「自然破壊」 読者のみなさん……

一月に入り、西武池袋線を利用した折不思議なことを発見しました。「池袋行」は当然としても、「武蔵丘行」という行き先が表示されたのには驚きました。看板をつくった企業（西武鉄道）は、天覧山・多峰主山の自然を守る会が何を言おうと開発優先と考えているのではないでしようか。自然というものは、一度壊されると再生するまでに長い時間がかかるものです。破壊されるとほとんどはもとどらないと思ふ。オオタカなどのいる、天覧山・多峰主山の環境をこわしてまで、西武鉄道が開発をする必要が、どこにあるのでしょうか。このような貴重な自然を、自分たちのものだけにではなく、永遠のものとして後世の飯能市民が誇れるものであってほしいです。

飯能市在住 佐藤正和（一五歳）

自然と共に生きる

現代「車（自動車）」社会への提言
天覧山・多峰主山の自然を守る会 秋郷伸一

「環境に優しい車とは」と聞かれて皆さんは何を想像するだろうか。私は環境に優しい車なんて本来はないのではないかと、ふと思ってしまう。何故なら、車は多かれ少なかれ環境を破壊する道具に外ならないからである。人はその便利さにマヒしてしまい、車外に放出する排ガスが、無限に広がる空間へ飛び去り、あたかも消滅してしまうという錯覚に陥っている。排ガスは発癌性があり、様々な環境破壊を起こしている張本人である。といっても、車を悪者扱いしているのではない。車は二〇世紀最大の発明といわれる。我々はその恩恵を受け、便利で快適な生活をしているのは事実である。しかし、それももう十分ではないか。私はいつも荷物のないときは自転車で行動する。車に乗り換えると、快適である反面、いかに多大なエネルギーを使っているかわかる。車には一人で乗っている人が圧倒的に多い。人と荷物をいれても、せいぜい百kg程度のものを運ぶ為に、これほど効率の悪いことはない。



トヨタ自動車が、世界的にも環境に優しいといわれる「プリウス」という車を発表した。しかし、私は何かしっくりこない。というのも、トヨタに限らず他社でも「環境に優しい」といわれる車を作っている一方で、環境破壊兵器ともいえるべき「大排気量ディーゼル四WD車」を製造し、野中を乗り回せと言わんばかりのコーナーを走らせているからだ。「アウトドア派には最適」という謳い文句で人気があるが、皮肉にも山中や河原を荒らし、動植物たちを死滅させている。このような車を製造している以上、CO2削減など到底無理だろう。本当に環境に優しいというならば即刻このような車は見直すべきではないか。



環境問題を考えるならば、技術革新に頼るのもよいが、なるべく車に乗らず自転車に乗るなど、日常簡単に出来ることが山ほどある。「ガイアシンフォニーIII」を観て、雪の残る中、自転車に素足で乗っていた老人に、驚きと私の未熟さを感じた。「やませみ」のビラまきに、県庁まで片道六十kmを自転車で行っているくらいで満足しているようでは、まだまだヒヨコである。寒い中、夜でも自転車に乗り、赤沢の自宅から街まで通う今日この頃である。

ふる里散歩の お知らせ

- ◎四月十二日（日）春の色いくつ？
- ◎五月十日（日）夏鳥のコラスを聞こう
- ◇集合 能仁寺山門前 午前九時半
- ◇参加費 保険料 百円
- ◇持ち物 お弁当・山歩きの服装
- ◇共催 埼玉県生態系保護協会 飯能名栗支部
- ・はんのう景観トラスト